

一 般 質 問 通 告 表

	ページ	
① 田 原 実	…… 1	(9月4日予定)
② 吉 川 慶 一	…… 3	(〃)
③ 山 本 剛	…… 4	(〃)
④ 保 坂 悟	…… 6	(〃)
⑤ 佐 藤 孝	…… 9	(〃)
⑥ 笠 原 幸 江	…… 10	(9月7日予定)
⑦ 田 中 立 一	…… 12	(〃)
⑧ 新 保 峰 孝	…… 14	(〃)
⑨ 高 澤 公	…… 16	(〃)
⑩ 五十嵐健一郎	…… 17	(〃)
⑪ 松 尾 徹 郎	…… 18	(9月8日予定)
⑫ 東 野 恭 行	…… 19	(〃)
⑬ 古 川 昇	…… 21	(〃)
⑭ 吉 岡 静 夫	…… 23	(〃)

令和2年(9月)第4回市議会定例会

質 問 事 項

① 田 原 実

1 新型コロナウイルス感染症対応地域医療フォーラムの成果と今後の地域医療体制について

【答弁者：市長】

- (1) 8月23日に市が主催した地域医療フォーラム「新型コロナウイルスとの共生」、その目的と成果について伺います。
- (2) 糸魚川総合病院での新型コロナウイルス感染症診療対応、感染症拡大防止策について伺います。
- (3) 介護老人保健施設「なでしこ」の事業終了と新型コロナウイルス感染症の関連について伺います。
- (4) 新型コロナウイルス感染症対応によって、行政、医療・福祉機関、市民の連携も見直していく必要があると思いますがいかがですか、伺います。

2 糸魚川市が推進する「売れる農業」について

【答弁者：市長、教育長】

- (1) 糸魚川市農林水産課のホームページから引用しますと、糸魚川市の農業を取り巻く状況は、農業従事者の高齢化や担い手の不足など様々な課題を抱えており、早急な対応が求められている。糸魚川市は農業を取り巻く「人と農地の問題」を一体的に解決するため、地域と話し合いを進め「人・農地プラン」の実質化に取り組んでいる。地域農業の将来方針となる「人・農地プラン」の実質化について、アンケート結果をもとに農業の将来の在り方について意見交換をするとともに、各種農業支援策などの情報提供を行う機会を計画した。とのことで「地域農業のこれからを考える会」を開催し、地域農業の将来について一緒に考えてみませんかと生産者や地域に投げ掛けをしましたが、糸魚川市に「売れる農業」を目的にしていく視点・論点があったのか、伺います。
- (2) 糸魚川市の質の高い特産品としては米がありますが、ナスや枝豆などもブランド化することが必要ではないでしょうか、伺います。
- (3) 「売れる農業」の実現に向けて、作り手から売り手まで切れ目なくつながっていき、利益を上げていくことが必要です。マーケティングやマネジメントをどのようにしていますか、伺います。
- (4) 糸魚川市と都市交流をしている長野県中野市では「中野市売れる農業推進室」として農業振興に積極的ですが、それに比べ糸魚川市の取組には戦略がないと感じます。中野市に学び、若い人が担い手となってくれるような明るい未来を感じる農業、「売れる農業」の実現を要望しますがいかがですか、伺います。

質 問 事 項

- (5) 持続可能な社会やSDGsの教育において、農業を地域社会の基盤として取り上げていくべきと考えますがいかがですか、伺います。

3 「えちご押上ひすい海岸物語」、新駅周辺まちづくりについて

【答弁者：市長】

- (1) 押上区に建設中の新駅の名称が「えちご押上ひすい海岸」となりました。この駅名とした理由や目的、市民からの反応や感想、駅名にふさわしいセンスの良い駅舎デザインとすることについて、伺います。
- (2) 駅名に「えちご押上」と入ると、東京都墨田区の押上との違いが分かると同時につながりづくりに役立ちます。押上地名つながりで都市交流を進めていただきたいと以前から申し上げてきましたが、これまでとこれからの取組について伺います。
- (3) 駅名に「ひすい海岸」と入ると、ヒスイが拾えるジオサイト前の駅であることが分かると同時に、富山県朝日町とのつながりで公共交通利用と観光に役立ちます。また国内有数のリゾート地 HAKUBA VALLEY と連携し、キラリと光る素敵な観光ストーリー「えちご押上ひすい海岸物語」をつくることがエリアのイメージを押し上げます。駅周辺に付加価値をつくることを目的とする取組について伺います。
- (4) 駅開業まで残り半年ですが、開業イベントはその後を見据えたものですか。駅周辺の観光飲食施設や商工団体と協議しながら準備を進めていますか、伺います。
- (5) 駅開業にあわせて駅周辺まちづくり会社をつくり連携することで、柔軟な発想と先進的な取組が実行され、住民が望む地域振興に役立つと考えますがいかがですか、伺います。

4 若い人たちへの行政情報伝達などにアニメを活かすことについて

【答弁者：市長、教育長】

- (1) 糸魚川市のホームページは誰に見ていただき、どのように活用されているか検証してありますか、伺います。
- (2) 若い世代への情報発信にアニメを活用すべきと思います。例として富山チューリップテレビなどの先進的な取組があり、参考にすべきと思案しますがいかがですか、伺います。
- (3) 以前新潟県が取り組んだ「宝石の国」というアニメとのコラボが思いのほか人を呼び、その後久比岐自転車道のPRキャラクター久比岐 凜（くびき りん）がつくれるなど、アニメの活用は新しい情報発信として注目され、期待されて

質 問 事 項

います。そこで、6月定例会一般質問で現在押上区に建設中の駅舎や鉄道に高校生や若い人から愛着を持っていただくのにアニメを使うことを提案しました。その後私なりに調査したところ、アニメと地図情報とを組み合わせた観光案内が研究されていることも分かりました。今後、アニメに詳しい市民や高校生を巻き込みながら、アニメを活用した新しい情報伝達に市で取り組むことを提案しますがいかがですか、伺います。

- (4) 糸魚川市は0歳から18歳までの子ども一貫教育に取り組んでいますが、全体のイメージをつかみにくいものとなっていますので、アニメを活用するなどの工夫で分かりやすくしてはいかがでしょうか。また市内で人材が不足する職業、例えば看護師や土木現場などの仕事に興味を持ち、進学から就業へとつながるように、アニメを活用することを提案しますがいかがですか、伺います。

② 吉 川 慶 一

1 新型コロナウイルスの感染による市内の観光に及ぼす影響について

【答弁者：市長】

- (1) コロナ禍によって、市内観光客が減少していると聞くが、昨年と比べて、経済への影響はどのように変わったか伺う。
- (2) 周辺地域及び市内の各イベント等の中止・延期により及ぼした影響と今後の対応を伺う。
- (3) 糸魚川元気応援券を利用して、市内経済の底上げができたか。今後も消費を後押しする計画はあるか伺う。
- (4) インバウンドを利用した企画での、観光地と観光客の見込みはどうか。また、今後の対応について伺う。

2 糸魚川市公共施設等総合管理指針の基本方針について

【答弁者：市長】

高度経済成長期に整備された公共施設等が老朽化し、これから更新時期を迎える。財政状況が大変厳しい中、必要な施設を維持していくためには、老朽化対策をしなければならない。

人口減少や少子高齢化など社会情勢の変化に対し、公共施設等の適正化を図る必要がある。

今後、公共施設等の現状を把握し、改修や更新に係る中長期的な経費の見通し、管

質 問 事 項

理に関する基本方針を定め、適正配置及び管理を行うことを目的として「総合管理指針」を策定した。

この指針には、①「社会情勢の変化に応じた適正配置を進める」、②「マネジメントによる効率的・効果的な管理を行う」、③「長寿命化を図る」、④「財政負担を軽減・平準化する」こととある。以下伺う。

- (1) 現在ある公共施設の地域の便利さ及び利活用をどのように考えるか伺う。
- (2) 今後、公共施設は、大規模改修、建て替えを迎えるが、整備計画はどうか伺う。
- (3) 当市の長期財政見通しでは、公共施設等の数量をこのまま維持していくことは困難ではないか。現状や課題について伺う。

3 市役所本庁舎への爆破予告について

【答弁者：市長】

先日「7月27日、糸魚川市役所本庁舎を爆破する」旨のメールが届いた。市では市民等の安全を最優先とし、7月27日（月曜日）午前を「臨時閉庁」とし、敷地内への立入りを禁止することに関する情報公表があった。以下伺う。

- (1) メールの内容から、職員と市民の安全をどこまで検討できたか。ホームページ、安心メール、防災行政無線で市民周知の検討をしたか。
- (2) 近隣市民周知で、行政区長に告知徹底できたか。近隣市民は不安を感じたと思うが、危険に伴う指示を出したか。
- (3) 職員はどこで待機していたか。もし、重大事件が発生した時の対応はどうか。
- (4) 事件は調査中であるが、検証結果の公表をどのように考えるか。

③ 山 本 剛

1 豪雨時、車を一時避難場所として使用する案について

【答弁者：市長】

このところ毎年、全国各所で豪雨災害が頻発しております。特に大きな災害を引き起こす線状降水帯は、現在の気象予報で正確に予測することはできないと言われております。しかし、大方の降雨予想はできています。豪雨予報が出された場合は、ハザードマップで示された土砂災害警戒地域や浸水想定区域では、早めの避難が必要と思います。現実には、なかなか避難をしないのが現状のようです。そのしない理由に、避難所でのプライバシーが保たれないとの意見を聞きます。市が開設する避難所も、コロナ禍により多くの問題点があります。避難は、自助・共助・公助が基本と考えています。自分自身の命は自分で守ることは絶対に必要なことです。

質 問 事 項

そこで、1つの避難方法を提案したいと思います。

長野県では、車での避難場所を地図で公表したという記事が報道されています。この避難方法なら、他人に気を遣うことなく避難できると、多くの市民からの声を聞きました。この避難方法は、エコノミークラス症候群や交通渋滞等、多くの問題点はあると思われませんが、検討する価値は十分にあると思います。

市として、どのように考えるか伺います。

2 こどもフリーパスの利用状況と高校生への拡大について

【答弁者：市長、教育長】

現在、こどもフリーパスが事業化されています。そこで、その利用状況等と、高校生へ拡大するとした場合の問題点について伺います。

(1) 市内で運行されている路線バスの状況について、以下伺います。

- ① 市内の路線バス1台当たりの乗車人数はどの程度か。
- ② 市として、糸魚川バス株式会社への運行費補助金額はどうか。

(2) 現在のこどもフリーパスの利用状況はどうか、以下伺います。

- ① 利用人数はどうか。
- ② 利用者はどこの地区が多いのか。

(3) この制度を高校生に拡大してもらいたいと考えています。高校生に拡大するとした場合、問題点は何か伺います。

3 コロナ禍及び猛暑における児童生徒の状況について

【答弁者：市長、教育長】

今年の夏は、コロナ禍、そして、猛暑と例年になく大変な夏でした。当市の小中学校では、例年どおりの夏休みが取れました。そこで、夏休み期間及び2学期開始後の児童生徒の生活状況について伺います。

(1) 夏休み期間中、例年ですと家族で旅行に出掛けたり、お盆には親戚等が帰省するなどがあります。しかし、コロナ禍と猛暑で例年とは大きく違った夏休みであったと思われまます。そこで、児童生徒の生活態度等に大きな変化があったか伺います。

(2) 昨年、市内小中学校の普通教室にエアコンが設置されました。そこで、エアコン使用基準、現状の運用状況と設置による効果等を伺います。

質 問 事 項

4 夏休み期間中の市公共施設の運営について

【答弁者：市長、教育長】

今年の夏は、コロナ禍、そして、猛暑と例年になく大変な夏でした。特に毎年当たり前になってきた猛暑で、生活様式も大きく変わるものと思われます。そこで、市が運営する公共施設等の夏休み期間中の運営について伺います。

(1) 今年4月にオープンした健康づくりセンタープールについて、以下伺います。

- ① オープン後の月別利用者数はどうか。
- ② 利用者の年代等はどうか。
- ③ 子どもの夏休み期間中だけでも、休日なしでの運営は可能か。

(2) 市内の図書館や公民館等についても、プール同様に夏休みを含めた長期休暇中は開館する必要があると考えます。今後、小中学生や高校生は、タブレットが必須となっていくと思います。しかし、通信環境が整っていない家庭もあると聞きます。教育の平等性が問題とされている中、通信環境が整っていない児童生徒の公共施設の利用について、検討が必要と思いますが、伺います。

④ 保 坂 悟

1 動物愛護の取組について

【答弁者：市長】

(1) 多頭飼育による生活崩壊の防止策について

- ① 多頭飼育に陥りやすい傾向や行動について、周知を行っているか。
- ② 生活崩壊の予兆や不安がある場合、市の相談窓口はあるか。
- ③ 生活崩壊があった場合、動物を預かる施設は確保されているか。
- ④ 生活崩壊後の飼い主への指導や支援は、どのように行うか。

(2) 動物用マイクロチップ装着の促進について

ペットの迷子や脱走があった時や、災害時にペットが行方不明になった時の対策として、マイクロチップがある。そこで、マイクロチップ装着費補助事業の創設と、この事業利用者から飼い猫等の基礎情報を提供してもらう考えはあるか。

(3) 災害時の同行避難の受入れについて

- ① 避難所収容時に駆虫薬の十分な備蓄はあるか。
- ② 動物用マイクロチップリーダーは、用意してあるか。
- ③ 同行避難に関する情報を安心メールで配信する考えはあるか。

質 問 事 項

2 市施設の点検と改修について

【答弁者：市長、教育長】

(1) 美山公園にある貯水池の排水施設について

経年劣化により排水溝本体の裏側に水の浸入が見られる。大雨や豪雨の時に排水溝自体が崩れるおそれがある。その対応を考えているか。

(2) 通学路や高齢者がよく利用する道路において、側溝と用水路のガードレールやガードパイプの点検と修繕について

① 側溝の深さや傾斜による段差や、側溝の規格違いによる横ずれ段差などによる流れの不備のチェックは行っているか。

② 小さな子どもの足が入るような側溝の蓋の口について、簡易な蓋をすべきと考える。地域や学校で総点検を行い、必要に応じて蓋をする考えはあるか。

(3) 地区から市への要望書の書式について

地区にとってメリットや貢献度のない施設については、市自らが地区に迷惑を掛けないように心掛けるべきであり、地区要望書に場所、理由、写真の添付を求める書式は本末転倒していると考え。施設の性格によっては指摘項目のみでよいと思うが、改める考えはあるか。

3 コロナ禍における子育て支援について

【答弁者：市長、教育長】

(1) 新生児特別定額給付金（1人10万円）事業の実施について

国から、第2次補正予算で増額した地方創生臨時交付金について、自治体が独自で行う新生児への給付金に活用できる旨の通知があった。コロナ禍で子育てする保護者に給付する考えはあるか。

(2) ひとり親世帯でコロナ感染した場合の支援について

① 働くことができなくなり所得を得られない場合の支援はあるか。

② 感染していない子どもの面倒を見る支援はあるか。

③ 感染した保護者の身の回りの生活支援はあるか。

(3) 子どもの定期予防接種の状況について

コロナ禍により医療機関に行くことをためらう保護者が3割程度いるという報道が以前あったが、市内の予防接種率はどうなっているか。

(4) コロナ禍におけるインフルエンザ対策の強化について

① 子ども及び妊婦のインフルエンザ予防接種費用助成について、コロナ禍のため収束するまで全額無償化で対応する考えはあるか。

② 市内全体のまん延防止のため高齢者の接種費用補助があるが、市独自に接種を促すため、補助対象や補助額を拡充する考えはあるか。

質 問 事 項

4 「子育てするなら糸魚川」と呼ばれる子どものためのまちづくりについて

【答弁者：市長、教育長】

市は、「子ども一貫教育基本計画」を作るなど、子ども教育や子育てに力を入れている。あとは成果を整理して情報発信を行うだけである。

- (1) 市内の子どもスキー教室の成果を分析しているか。
- (2) 中学生海外派遣事業における、英語検定とジオパーク検定の成果を分析しているか。また、事業参加者の進路調査を行っているか。
- (3) キャリア教育における中学生職場体験事業と、高校生を核とした地域人材育成事業の成果を分析しているか。
- (4) 陰山メソッドにおける1年間の学習内容の把握とスピードを意識した学習により、分からないところをすぐに埋める思考や学習の集中力に変化は見られるか。
- (5) 通年で「興味を育てる」遊び場(体験する場)の提供について
 - ① 博物館・図書館等の公共施設における成果を分析しているか。
 - ② キターレ・道の駅等の商業施設における成果を分析しているか。
 - ③ ジオパル・フォッサマグナパーク・美山公園や、須沢臨海公園等の各公園における成果を分析しているか。
 - ④ 市の宿泊施設やキャンプ場における成果を分析しているか。

5 デジタル社会の推進について

【答弁者：市長】

デジタル技術は手段であり、「人間中心のデジタル化」を加速すべきである。高齢者、障害者、生活困窮者など「情報弱者」になりやすい方たちへのサポート体制の整備も不可欠であり、SDGs同様に「誰一人取り残されないデジタル化」が大事である。また、新型コロナウイルス感染症による人と人の分断を「デジタル技術」で克服することが求められている。

- (1) マイナンバーカードのメリット向上策について、考えはあるか。
- (2) 自治体間の行政システムの統合について、考えはあるか。
- (3) 行政サービスのロボット化に向けた準備は行っているか。
- (4) 市民一人一人のデジタル化の促進について
スマートフォンやタブレットの情報弱者への普及策を考えているか。
- (5) 産官学連携による市独自のアプリ開発とその導入について
 - ① デマンド式タクシーやバスの乗車予約や鉄道切符等の購入ができる公共交通機関の利用のアプリを考えているか。
 - ② 医療機関で共有できる電子カルテアプリを考えているか。
 - ③ 移動販売やデリバリータクシーの注文アプリを考えているか。

質 問 事 項

④ 食品ロス削減（フードシェア）アプリの導入を考えているか。

6 市の観光・レジャー施設等の成果と分析について

【答弁者：市長】

(1) 「事務報告書」の書式改善について

事務報告書では単価やその年の気象・政治・経済などの背景の記載がなく、利用者数と使用料の記載があっても前年対比する数字がないものなど、所管課や事業により資料の作り方がばらばらである。

そこで、比較できるように書式を統一する考えはあるか。

(2) 「事業目的達成度報告書」の作成について

「決算書」は予算の執行状況、「事務報告書」は事業概要と利用状況である。目標に向かっての取組の程度が見えない。そこで、①事業目的のための取組経過、②年度背景、③費用に対する成果の分析と評価の3項目で報告書を作る考えはあるか。

(3) 指定管理事業や委託事業の評価について

① 暖冬少雪やコロナ禍により「リスク分担」が注目されている。指定管理者や委託団体に対する営業評価は、どのように行うのか。

② スキー場や宿泊施設に見られる「コスト」と「まちづくり戦略」の検証は、どのように行うか。また、その市民周知を行う考えはあるか。

⑤ 佐藤 孝

1 新型コロナウイルス感染症対策について

【答弁者：市長】

(1) 特別定額給付金について

① 特別定額給付金について、給付者数、給付率はどうなっているか伺う。

② 特別定額給付金を申請しなかった人について、その理由の把握はされているか伺う。

③ 特別定額給付金のオンライン申請の状況については、どうであったか伺う。

(2) ひとり親世帯臨時特別給付金について

① 令和2年6月分の児童扶養手当の受給者については、申請が不要で口座に振り込まれることになっているが、それ以外の対象者については申請が必要とされている。申請書による給付申請数及び追加申請数は、どのような状況か伺う。

② 申請書については、市や厚生労働省のホームページを見ても良く分からな

質 問 事 項

い。令和2年6月の手当受給者以外は申請し難くなっているように思えるが、いかがか。

- ③ 飲食業やサービス業等で働く、非正規のシングルマザーが、解雇や仕事の減少で窮地に陥っているという全国報道に幾度か接した。糸魚川市内での実態は、どのように捉えているか伺う。

(3) 新型コロナウイルス感染症緊急事態宣言や自粛による市内への影響について

- ① 売上げ減少や将来を危ぶんでの廃業等は、どうなっているか伺う。
② 失業者の増加、生活保護申請の増加といった傾向は、表れていないか伺う。
③ 雇用調整助成金、緊急雇用安定助成金の利用状況について伺う。
④ インフルエンザ流行時期が近付いてきた。新型コロナウイルス感染症とインフルエンザの同時流行に備えた対策は、考えているか伺う。

(4) 新しい生活様式の詳細策について

「新しい生活様式」は、国が国民に求めるだけの5項目となっている。糸魚川市では感染者数が最低限に抑え込まれた状態であるが、国内の大都市圏や外国では収束はなかなか見えてこない。以下伺う。

- ① 視覚障害者や聴覚障害者にとっては、マスク着用によって声がかくもり、また口元が見えず、言葉の判断がしにくくなる。表情も読めず、コミュニケーションが難しくなる。ましてや、人との間隔は最低1mと言われている。新しい生活様式を進めるに当たり、高齢者や障害者のコミュニケーション対策を考えているか伺う。
② 国連は、自然破壊や気候変動と新型感染症発生の関係について警告している。気候変動による大規模災害の連続と新型コロナウイルス感染症等が連動しているとすると、座して観ている訳にはいかない。SDGsの17の目標達成を喫緊の課題として取り組むべきと思うがいかがか。

⑥ 笠原幸江

1 糸魚川ジオステーション ジオパルの現状と課題と今後について

【答弁者：市長】

「ジオパル」は糸魚川の魅力の発信基地として、JR糸魚川駅のアルプス口に平成27年の春に開設されました。施設として「ジオパーク観光インフォメーションセンター」、「キハ52待合室」、「ジオラマ鉄道模型ステーション」、「トワイライトエクスプレス再現展示」のほか、今後の予定として「くろひめ号」が展示され、5つで構成されることとなります。鉄道愛好家の輪が大きく広がっていると関係者からお聞きしています。その中心施設として、更なる飛躍に期待するものであ

質 問 事 項

ります。また、子どもたちにとっても遊び一杯のプラレールが、夢を乗せて楽しさ満載の場所となっています。市内外の人々が利用しやすい「ジオパル」は5年経過し、少し手狭感はありますが、現状と課題と今後について、以下の項目をお伺いします。

- (1) 開設当時のコンセプトは、どのようになっていますか。
- (2) 待合室としての現状に問題はないですか。
- (3) ジオラマ鉄道模型ステーションの利用度の分析をされていますか。
- (4) 管理運営は、現在どのような形態となっていますか。今後、ジオラマ鉄道模型ステーションを独立して管理運営されたらと考えるがいかがですか。
- (5) 市民から利用済みになったプラレールの寄附を、開設当時にされています。このプラレールを有効活用するための現状はどうなっていますか。また、今後の企画を考えていますか。

2 市内いつでもどこでも安全・安心なおいしい水について

【答弁者：市長】

私たちの生命を守り続けている地球からの贈り物「水」。当市においても井戸水から水道水に変わった水道法に基づく水道水になって68年目に入りました。

私は、「安全・安心な水道水の確保について」を平成18年6月定例会で一般質問させていただいています。その後の経過と今後について、以下の項目についてお伺いします。

- (1) 経年管(石綿管)使用延長、糸魚川上水道7.8km、能生上水道2.3km、西海簡易水道3.8kmについて、約10年間程度かけて交換とお聞きしていますが、完了していますか。
- (2) 水質基準項目は51ありますが、項目以外の水質検査は進んでいますか。特に水のおいしさに関する基準は7項目ありますが、その中の遊離炭酸の検査をその後されていますか。
- (3) 中山間地に散在する組合水道の公営化の進捗状況は、どうなっていますか。
- (4) 毎年6月1日に水道週間を掲げています。市民に引き続き周知をされそうですが、周知方法の工夫改善点はありますか。
- (5) 水道ビジョンでは、計画期間が平成21年度から平成40年度までと明記されています。自然や社会環境の変化とともに見直しする必要があると考えます。いかがですか。
- (6) 水道料金あり方検討委員会での資料の課題として、経営状況は令和6年から赤字経営に陥ると示唆しています。その対策はどうですか。

質 問 事 項

3 資源循環型社会の推進について

【答弁者：市長】

令和2年4月に新ごみ処理施設が稼働し、埋立てごみであったものの一部が燃やせるごみに変更され、4か月が経ちました。さらに、容器包装リサイクル法が改正され、7月1日から海洋プラスチック問題や地球温暖化の解決の一步として（レジ袋）の有料化がスタートし、2か月が経ち、広報いといがわ7月号で特集もされています。コロナ禍の中、1日も休まず収集を支えていただいたと感謝の声もあるとお聞きしています。一方、分別に慣れた市民の戸惑いや、燃やせるごみとして取り扱われることの利便性と様々であります。そこで、家庭ごみを減量するため様々な取組をしていますが、一向に減量が進んでいないのが現状です。減量目標値を達成するため、以下の項目についてお伺いします。

- (1) ごみ処理に係る経費は、年間1人当たりどのような推移となっているか伺います。
- (2) レジ袋が有料化され、買物の時にマイバックを持参される市民が多くなったと感じています。燃やせるごみの日に出す家庭ごみ用の袋があつたらよいのではとの声もお聞きするようになりました。費用負担の公平性な観点から排出時のごみ袋の有料化に着手される考えはありますか。
- (3) 当市指定のごみ袋を作成し、安価で販売したらよいのではないかと考えます。県内の取組の現状と、当市として踏み込めない理由は何なのか伺います。

⑦ 田 中 立 一

1 新型コロナウイルス感染症による影響と対応について

【答弁者：市長、教育長】

- (1) 経済、雇用への影響について
 - ① 市内事業所における、新型コロナウイルス感染症による解雇・雇止めの状況と雇用調整助成金の活用について伺う。
 - ② テレワーク導入・実施の状況と、今後の普及に対する支援についての考えを伺う。
- (2) 災害時の避難所運営について
台風シーズンを迎え、豪雨など自然災害に対し、コロナ禍での避難所設置・運営について「3密」の回避や検温など、対策についての考えを伺う。

質 問 事 項

(3) コロナ禍における文化・芸術振興について

新型コロナウイルス感染症の影響で活動が制限され、発表の場を失っている文化・芸術団体であるが、県は文化芸術分野を盛り上げるため「新潟県文化祭 2020」を開催した。12月31日までの会期中、動画の配信などを展開するが、市ではどのように参画を考えているか伺う。

また学生も、吹奏楽や合唱などの各種大会やコンクールが中止となり、発表や集大成を披露する機会が失われているが、練習や代替事業についての考えを伺う。

2 糸魚川市の農業について

【答弁者：市長】

(1) 2020年産米について

7月は雨が多く、記録的な日照不足となり、8月は残暑厳しく、高温による米の劣化が心配されるが、情報の把握と対策について伺う。

また県とJAは、新型コロナウイルス感染症の影響で主食用米の需要減少が見込まれ、価格下落の危機感から「田んぼ一枚転換運動」を推進したが、市内生産者の取組について考えを伺う。

(2) 中山間地の農業について

① 県の中山間地モデル事業について

県では、経営環境に不利な中山間地に対し、所得保障を定額で助成するモデル事業を、平成29年度から県内3地区ずつ選び行ってきたが、市内では徳合地区が第1期のモデル地区に選定され、今年の3月で助成期間が終了した。本事業の検証と今後について、どのように考えているか伺う。

② 薬草・生薬事業の取組について

当地域は昔から、良質なヨモギなど薬草の採取が盛んで、農家にとって農繁期の合間の重要な副収入にもなっていた。

高齢化等社会環境の変化に伴い、従事者も減少しているように見受けるが、一方で生薬栽培を目指す動きもある。

中山間地の産業として薬草や生薬の栽培、生産の現状と今後について、どのように考えているか伺う。

③ 農地の集積状況について

2014年度に始まった農地集積バンク事業は、中山間地において苦戦し、担い手の確保が難しい状況のようだが、当地の取組と市の考えを伺う。

質 問 事 項

3 空き家対策について

【答弁者：市長】

7月に、市内の特定空家に認定されている空き家1棟を取り壊す、略式代執行が行われた。

市内では空き家が多く存在し、今後も増え続けると予想されるが、空き家の現状と特定空家に認定されている空き家について、今後の対応を伺う。

4 動物愛護の取組への支援について

【答弁者：市長】

8月11日、12日に上越市内で、動物愛護団体による野良猫増殖地で捕獲した猫に不妊・去勢の手術が行われた。

野良猫増加による住民トラブル防止、殺処分される猫の減少を目的として、2日間で約30匹の猫に手術を行った。

主催団体の話では「餌づけによる野良猫の増加や、多頭飼育の崩壊に関する相談が多く、多頭飼育の崩壊は高齢、生活困窮といった事情を抱えた飼い主に関係するケースが多い」という。

また「ボランティアも時間、資金、人数の点で限界に来ており、行政主体にボランティアが協力する形が良い」とも報道されていた。

糸魚川市内においても同様の事案や犬などペットに対する飼い主のマナーといった問題も聞かれるが、現状の把握と取組への考えを伺う。

⑧ 新 保 峰 孝

1 新型コロナウイルス等感染症対策と地域医療の充実について

【答弁者：市長、教育長】

(1) 糸魚川市における新型コロナウイルス感染症の影響をどのように捉え、検査体制、医療体制、経済対策等、どのように対応してきたか。

① 医療機関、福祉施設、学校関係者、企業、飲食店等、集団感染しやすい事業者への影響、働く人たちへの影響をどのように把握しているか。感染状況と連携した対応はどのようになされたか。

② 相談体制、PCR等検査体制、隔離・保護施設の確保、入院・病床確保等の医療体制、保健所と開業医・病院との連携、各事業者の対応は、どのようにな

質 問 事 項

されたか。

③ 経済対策等の効果をどのように捉えているか。

ア 飲食業、宿泊業等事業者支援策の効果

イ 特別定額給付金、介護保険料、国民健康保険税の減免制度等、市民への支援策の効果

④ 学校等への支援策の効果をどのように捉えているか。

(2) 今後、秋・冬のインフルエンザと新型コロナウイルス感染症が同時流行することも考えた感染症対策が問われることになるが、どのように対応する考えか。

① 保健所の相談体制とPCR等検査体制、発熱外来の設置等での関係者間の連携、隔離・保護施設の確保、入院・病床確保等については、どのようなやり方で進める考えか。

② 半年経過後の市内経済の現況をどのように捉えているか。経済対策の強化も必要になってくるのではないか。また、学生支援のような市独自の支援策の強化も検討すべきではないか。

③ 新型コロナウイルス感染症を早期に抑え込むには、感染震源地対策の強化が鍵になるのではないか。

都市部の感染震源地域の全住民、事業所全体でPCR等検査を実施する。地域ごとの感染状態情報を住民に開示する。医療機関、福祉施設、学校等、感染リスクの高い関係者に対する定期的PCR等検査を行う。陽性者を隔離・保護・治療する体制の確立等、国に求めることが必要ではないか。

(3) 国による医療費削減政策が進められてきた結果、新型コロナウイルスの感染拡大により、医療人材確保や病院経営に大きな打撃となって現れている。厳しさを増す糸魚川地域の医療について、どのように考えているか。関係者間の連携がますます求められてくると思うがどうか。

(4) コロナ禍で運動不足になりがちな時こそ健康寿命を延ばす取組が必要と考える。どのような取組を行っているか。

2 産業振興について

【答弁者：市長】

(1) 市内産業の推移についてどのように捉え、どのような振興策をとっているか。

① 就業人口や市内総生産実額において農業の落ち込みが激しい。農業、林業の衰退は、中山間地域の水田、畑、山林等の維持管理に直結し、災害防止の面からも大きな影響がある。農業の担い手不足が顕在化している中で、中山間地域の資源を生かした取組強化が求められているのではないか。

② 漁業の就業人口は減っているが、海洋資源を生かした取組は、糸魚川市の特

質 問 事 項

- 色を生かした取組となる。6次産業化方式を更に研究強化すべきではないか。
- ③ 1次産業も含めた幅広い起業支援を行うと同時に、中小企業支援策の強化を図るべきではないか。
 - ④ 新たな仕事をつくりだすための農林漁業振興公社をつくり、地域資源を生かした仕事づくりに取り組んだらどうか。
 - ⑤ 新型コロナウイルスの感染拡大により、価値観の変化が言われている。地域資源を生かした新たな仕事づくりが、誘客に結び付くような取組にしていく必要があるのではないか。

3 子ども医療費助成について

【答弁者：教育長】

当市の子ども医療費助成事業は、入院、通院ともに高校卒業までの助成となっている。入院は全額補助だが、通院では一部負担金がある。通院も全額補助できないか。

⑨ 高 澤 公

1 市職員の各種資格取得状況について

【答弁者：市長】

- (1) 市は、資格試験受験料補助金制度事業で、資格取得者の支援をしていますが、助成申込者の中に消防職員のほかに市役所職員はいません。一般職員は対象外なのか、又は向上心を持った職員が少ないのか。
- (2) 働き方改革が言われてから久しいものがありますが、定年退職後の第2の人生が一番楽しいと説く本も出ているくらいです。有意義な人生後半を過ごすための方法として、資格取得も大事なことと思われませんが、市の考え方を伺います。
- (3) 市職員のスキルアップの方法として、各種資格試験の取得は最適なものと思われませんが、職員の意識高揚に対して、どのように対応してきたか伺います。
- (4) 難関の国家資格への挑戦は1回でクリアできるものとは限りません。現在の制度では同一試験で何回まで利用できるのか。同時に補助金はどうなるのか。
- (5) 市の事業で1款から11款まで全ての事業で外部委託をしています。指定管理や調査、統計、設計、測量など幅広い分野で外部事業者への委託をしています。職員の中にそれら職種の専門資格を持っている人の有無によって、費用も変わってくると思います。資格取得は職員個人のためばかりではなく、市の経費節減のためにも大いに役立つと思いますが、いかがでしょうか。

質 問 事 項

(6) 現在は人生100年と言われ始め、実際に80歳を過ぎても元気で働いている人を見掛けます。見掛けるというよりも普通の現象となっています。冒頭にも言いましたが、第2の人生のほうが面白いともいわれます。資格を持っていることは、第2の人生の選択肢を広げる意味もあります。市長以下部長以上の職員は、一般職員の定年後にまで目を配る必要があるのではないかと思います。いかがですか。

⑩ 五十嵐健一郎

1 第2期「糸魚川市まち・ひと・しごと創生総合戦略」等について

【答弁者：市長】

(1) 少子化対策について

- ① 本気の子育て支援と「ワンランク上の」移住定住施策の考えはあるか、伺います。
- ② 婚活・仕事支援制度の充実の考えはあるか、伺います。
- ③ 財源確保対策及び民間提案制度の導入の考えはあるか、伺います。

(2) 糸魚川ブランドの創出について

- ① 公民連携及び大学連携の取組についての考えはあるか、伺います。
- ② マーケティング支援策と産業支援センター（糸ビズ）の設置に向けた調査研究の考えはあるか、伺います。
- ③ 水の研究とCCRCの実現に向けた取組及びマイスター制度の進捗状況は、どうなったか伺います。

(3) 働き方改革について

チャットツールの活用及び人事評価制度の整備の考えはあるか、伺います。

(4) 健康福祉対策について

- ① 地域ポイント制度及び地域通貨の導入の考えはあるか、伺います。
- ② 介護人材の育成・確保とAIの活用についての考えはあるか、伺います。
- ③ ヘルスケアの推進と高齢者の見守りの考えはあるか、伺います。
- ④ 節薬バッグ運動の考えはあるか、伺います。

(5) 防災・セキュリティの取組について

監視システム設置計画及びSNSを活用した住民からの情報提供の考えはあるか、伺います。

⑪ 松尾 徹 郎

1 市政運営について

【答弁者：市長】

合併後 15 年が経過しましたが、その間、「新市建設計画」に基づき 100%とはいかなくても、計画に沿って忠実に実行されてきたのではないかと思います。しかしながら、それと並行して、積極的な行政改革が行われてきたかと言えば、疑問に思う点もあります。平成の大合併は、国はもとより、当時、厳しい財政状況におかれていた自治体にとって市町合併の目的は、新しい自治体を創るための財源確保と維持発展するための 1 つの選択肢であり、究極の行政改革であったと思います。

しかし、低成長時代に入り、人口減少とともに、高度成長期に整備された公共施設の老朽化も進み、施設改修と改築が新たな課題となってきました。また、高齢化社会を迎え、社会福祉費の増大を始め、異常気象等により水害や地震災害など、防災・減災に対する備えのほか、市民要望に応えるための、新たな行政サービスも求められています。

一方、今年に入り、新型コロナウイルス感染症は健康被害だけでなく、産業・経済に与えたダメージも大きく、国内・国際経済はもとより地域経済に与えた影響は極めて大きく、景気回復するとしても、最短で 1・2 年はかかり、完全回復には 4・5 年先になるのではないかととも言われております。また、国の感染予防対策費を始め、景気後退に伴う緊急経済対策等により、国の財政状況もますます厳しさを増してきているだけに、国の財政に左右されやすい当市の現状を考えるならば、今後の市政運営に与える影響も大きいと考えます。

国の財政運営が不透明感を増す中、新年度以降、当市においても厳しい予算編成を余儀なくされるものと思います。

今年の 3 月に発表された当市の長期財政見通しでは、予算規模は年々縮小傾向になり、施設整備関連予算、すなわち投資的予算は年々減少し、地域経済に与えるマイナス影響も大きいと考えます。また、借入返済額においては、中長期的に見てほとんど変わらないため、一般会計に占める返済金額の割合は年々高くなってきています。そのため、自由に使える予算が縮小傾向にあり、今後、地方交付税交付金や補助金の減額も考えられるだけに、行政改革を積極的に推進し、財源確保を図らなければなりません。

かつてのように公共投資を中心とした地域振興策や自治体経営が厳しさを増す中、少しでも行革を進めながら、受益者負担の適正化、不要財産の有効活用など、財源の捻出を図る必要があります。これまでの延長線上で事業を進めていくことにより、10 年先、20 年先には大きなずれが生ずる可能性もあります。したがって、将来を見越し、人口減少時代に対応できるよう「簡素で、効率的で賢い自治体」を目指すべきだ

質 問 事 項

と考えます。

そこで伺います。

- (1) 今年の3月に「糸魚川市長期財政見通し」及び「行政改革実施計画」が発表されました。新型コロナウイルス感染症対策費や緊急経済対策費などにより、国の財政状況が厳しさを増す中、財政支援を受けている当市にとっては、今後、交付金や補助金などの減額も考えられます。長期財政見通しも含め、新年度以降の予算編成について、どのように捉えているか伺います。
- (2) 「行政改革実施計画」では、効率的かつ効果的な行財政運営を心掛け、職員への周知徹底及び意識改革を図り、行政改革を推進しなければならないと記されています。財源を捻出するために、どのような行政改革を推進しようとするのか、具体的にお聞きします。
- (3) 実施されている事業で、見直し・廃止・拡充予定等、新規事業を含め検討を重ねている事業があると思います。現状について伺います。

⑫ 東 野 恭 行

1 コロナ禍における地域経済の見通しについて

【答弁者：市長】

国内の新型コロナウイルス感染症拡大からおよそ半年が経過しました。

市内飲食業や小売業・宿泊業の聞き取り調査の中で、糸魚川市独自の迅速な経済対策から、事業継続に対するモチベーションの向上もみられ、7月、8月には一部のお店で売上の回復基調も見られました。糸魚川市の対応に感謝申し上げます。

政府の新型コロナウイルス感染症対策本部は、国民全員に行きわたる量のワクチン確保を目指し、関連費用を今年度予算の予備費から充てる方針を決めております。早期開発と流通を期待するところであります。ワクチンや治療薬が完成するまで、糸魚川市も「夢と希望」を忘れず、状況変化に負けない適応力で乗り切っていければと考えます。

- (1) コロナ禍の影響を踏まえ、今後の地域経済の見通しと対応策を伺います。
- (2) 経営相談窓口の利用状況を伺います。
- (3) 好評であった「糸魚川元気応援券発行事業」と「出身大学生等応援事業」について、内容の再考も含め、コロナ禍の状況に応じた検討をするか伺います。
- (4) コロナ禍において会社運営・店舗運営が厳しい状況が続く中、地域の中小企業やお店は、事業継続における経営努力をされています。糸魚川市として事業所との関わりについて伺います。

質 問 事 項

2 コロナ禍における糸魚川市内観光への影響について

【答弁者：市長】

- (1) 市独自の「糸魚川・今すぐGoToキャンペーン」の効果について伺います。
- (2) 令和2年8月現在、Go To トラベル事業の対象に、これまで除外されていた東京発着の旅行が追加される可能性があります。来市によって新型コロナウイルス感染症拡大への懸念がある中、糸魚川市の医療体制をどのように整備検討していくのか伺います。
- (3) コロナ禍により、インバウンド需要が壊滅的であると考えますが、令和2年度一般会計予算の「インバウンド推進事業」の中の糸魚川シーフードシャトルバスの運行について、今年の開催はどのように考えておられるか、伺います。
- (4) コロナ禍は現状、収束の見通しが立たない状況ですが、糸魚川市民の皆様に、市内観光資源の魅力を再認識していただく機会と捉えています。糸魚川市の考え方を伺います。

3 コロナ禍における糸魚川市のウェブサイトやSNS活用について

【答弁者：市長】

- (1) 市内観光関連事業の消費喚起による地域経済の回復に向けた誘客宣伝（ECサイト構築等）の取組に関して、補助金交付後の事業者と糸魚川市の関わり方について伺います。
- (2) 糸魚川市公式ウェブサイトのトップページは、年間約50万件のアクセスがありますが、コロナ禍の状況において、広告バナーの枠数拡大と一定期間の有料広告掲載の減免措置の考えはありますか、伺います。
- (3) 糸魚川市としてSNS（ツイッターやインスタグラム等）の公式アカウント取得と活用について、有効な手段と考えますか、伺います。

4 糸魚川市駅北復興まちづくり計画について

【答弁者：市長】

令和2年7月29日に第5回糸魚川市駅北まちづくり会議（実践会議）が開催されました。実践会議は、糸魚川市にとって公民連携の新しい形に挑戦しており、今後のまちづくりのスタイルとして課題解決や、物事の達成に寄与していくと考えます。

当日は、にぎわいの拠点施設の方向性を定める3つの視点が示され、その中の市内行政課題への対応として「子育て支援機能強化」とあり、当日は今後のハード面の整備について考え方が示されました。

質 問 事 項

大火からおよそ3年と半年が過ぎ、ここに来て糸魚川市駅北復興まちづくり計画とは別に、立地適正化計画、明日の糸魚川を担う「ひとみかがやく日本一の子どもをはぐくむ」第2期糸魚川市子ども・子育て支援事業計画の一端が姿を見せてまいりました。

糸魚川市の顔となる駅北地区。今後の糸魚川市のまちづくりに関して意欲と考え方を伺います。

- (1) 糸魚川市の財源は年々先細り、少子高齢化が進む中、子育て支援の強化を図ることで、当市における「子育て環境や支援の満足度」をどの程度引き上げたいのか、考えを伺います。
- (2) 今後のリノベーションのまちづくりについて、糸魚川市の考えを伺います。
- (3) 糸魚川市は復興推進課の役割が終わった後、中心市街地の活用需要をどの程度引き上げたいのか、考えを伺います。
- (4) 駅北地区は高齢化が進み、生鮮食料品などの「買物難民」が多く存在します。行政として、地区の方々に不安を助長させないための手立てを伺います。

⑬ 古 川 昇

1 介護保険事業について

【答弁者：市長】

新型コロナウイルス感染症のまん延により、介護に関わる高齢者、要介護者及び介護サービス事業所は、深刻な状況にあります。このウイルス感染が収束方向に向かったとしても、感染予防に対する意識は以前とは異なるものとなります。不要不急のサービスを控える傾向は今後も続くと考えますし、活動の機会が減少することで心身機能や認知機能の低下などによるサービス利用者の重度化やフレイルから、介護認定者の増加など新たな課題も懸念されるところです。2021年は介護報酬改定と第8期介護事業計画が新たにスタートする年度に当たります。地域包括ケアシステム・自立支援重度化防止の推進や介護人材確保・介護制度の持続可能性、安定性の確保を重点とする方向が示されています。新型コロナウイルス感染予防に力を注ぎながら、従来よりも増して保険者として機能強化が求められていると考えます。以下伺います。

- (1) 2018年以後、自立支援・重度化防止の取組で実績と結果の評価が重視され、報酬加算や評価加算が付きました。自立支援の介護サービスに対する実績結果を、どのような指標で評価してきたのか伺います。
- (2) コロナ禍にあつて介護施設や障害福祉事業所では、人材確保施策をどう進めているか、実態・課題を伺います。

質 問 事 項

- (3) 介護老人保健施設、小規模多機能型居宅介護施設の閉鎖の実情と、市全体の介護事業への影響と課題について、行政の捉え方を伺います。
- (4) 高齢者の新型コロナウイルス感染予防や自粛による介護予防や健康教室・地域コミュニティ活動への影響と、今後の活動推進について伺います。
- (5) 介護施設の介護ロボット、ICT活用導入の実態と関わりを伺います。
- (6) 介護報酬上乘せ特例の撤回と導入状況、行政の捉え方を伺います。

2 障害者支援について

【答弁者：市長、教育長】

糸魚川市において移動等円滑化促進の方針策定が図られ、障害者の移動や建物に対する生活環境の整備促進が進められています。

バリアフリーとは、障害者等が生活する上で障壁となるものがないことを言います。2006年にバリアフリー法ができ、2016年には差別解消法が施行され、不当な差別的取扱いの禁止、合理的配慮の義務が課されました。何よりも障害者福祉の推進に当たっては、地域住民の理解が不可欠であり、障害や障害のある人への正しい理解と福祉活動への関心を高めるために、積極的な周知啓発、働きかけが重要です。以下伺います。

- (1) 糸魚川市移動等円滑化促進方針推進協議会による、移動に係る動線の実態調査が行われたと聞きました。点字ブロックの補修や敷設、横断歩道など新たな整備箇所の課題が確認されたのか、行政の認識を伺います。
- (2) 重度身障者の外出移動支援について、福祉タクシー券の支給額の検討では、来年度改定の可能性はあるか、伺います。
- (3) 読書バリアフリー法が制定され、図書館整備が推進されています。図書館内に据置き型拡大読書器設置の検討はどうか、伺います。
- (4) 特別支援学校の一般就労支援や福祉作業所での実習等について、新型コロナウイルス感染予防対策の影響はどうか。また、地域自立支援協議会専門部会の活動実態と相談支援の状況把握について伺います。

⑭ 吉 岡 静 夫

- 1 市議・市長、今任期は2021（令和3）年4月23日まで。これまでの約3年余りを顧みて。
 - (1) 二元代表・議会基本条例
 - (2) 高齢社会・老老介護
 - (3) 「弱者」をこそその市政に
- 2 市消防団員の処遇改善・向上策を

【答弁者：市長】

今回は、大きく次の2点を取り上げ、お伺いさせていただきます。

その1は、「市議・市長、今任期は2021（令和3）年4月23日まで。これまでの約3年余りを顧みて」、その2は、「市消防団員の処遇改善・向上策を」。

それぞれ市長、考えるところをお示しいただきたい。よろしく願いいたします。

- 1 市議・市長、今任期は2021（令和3）年4月23日まで。これまでの約3年余りを顧みて。

議員・市長、共に任期半ばの折返し点を過ぎました。

そこで、反省・掘り起こしの思いを込めてこれまで訴え続けさせていただいてきた事柄の中から大きく3点を取り上げ、改めて確認の意を込めて、「二元」の一方である市長への問いかけとさせていただきます。

よろしく願いいたします。

- (1) 二元代表・議会基本条例

「二元代表」を範とし、目指しての「議会基本条例」が、我が糸魚川市で制定され、動き出したのが2016（平成28）年9月定例会。

「議員・議会」と「市長・行政」は、共に「二元代表」、「双方、互いに監視・チェックしあいながら」を最大の目的・責務として、その根っこに据えています。

ところが、現実はどうか。私に言わせれば大きな問題を抱えていると言わざるを得ない。

例えば、実務遂行力・情報処理力・人的対応力。役所は500人からの職員を動員しての対応、対しての議員はほとんど1人で何でもこなさなければならない。力の差は歴然。ましてや、普通の市民お一人おひとりとなるとなさら。そこに「オカミ」（役所）主導の動き・流れに依存せざるを得ない、時には理屈はともかく「追従」という形をとってしまわざるを得ない「タミ」（市民お一人おひとり）—という現実にはぶつからざるを得ないことのなんと多いことか。

私たち、こういった現実・実態を「二元代表制」の根っこに抱えているのだと

質 問 事 項

いうことに気付き・見定め・自覚し、対応するところから始めなければなりません。

でないと、折角の「二元代表制」、単なるきれいごと・掛声かけに終わってしまう危険すらあり得ます。そうさせてはなりません。

具体例を1つ。あの「柵口温泉・権現荘」問題。多くの問題点が巷間輩出、論ぜられていたにもかかわらず、「いつまでも過去のことを調べても」、「すべてを出し切っているのに」の空気の中で流されることのなんと多かったことか。

さらに問題なのは、「もう議決までしているのに」、「議決したのは議会。それをいまさら」の空気。

であればこそ、私たち、「見直し・洗い直し・作り直し」の声を互いに出し合う・交わしあう勇気こそ必要。それでこそ「議員（議会）」、「市長（行政）」。互いに大きく標榜しあっている「二元代表」。

「右ならえ」、「みんなで渡れば」の流れに対し、「でも、それオカシインじゃない?」と言い合えること。それこそが「二元代表」の「二元代表」たるゆえん。

これを、「何をいまさら。空気も読めない空気に乗れない困ったちゃん」の空気の中で封じ込めるような流れにしてはなりません。

もともと「二元代表制」の目指すところは、「オカミ（行政）」に対する「タミ（市民おひとりおひとり）」が、力や数や勢いに飲み込まれないで、たとえ「オズオズ・ブツブツ」でもいい、もの言い合えること。そんな「役所」を、そんな「議会」を、そんな「まち」を作り上げ、そこに堂々と住み続けられること。

さらに一言。

誰が「市長」であろうが、誰が「議員」であろうが、「立ちどまり、考え直し、行動させてもらおう」—それこそが、私たちが作り上げた「議会基本条例」の目指すところ、根っこ。互いに尊重しあおうではありませんか。

そんな思い・願いを込めて述べさせていただきました。

市長、いかがでしょうか。

(2) 高齢社会・老老介護

私自身84歳、さらに妻78歳。「高齢社会」「老老介護」の真ただ中で生かさせてもらっております。働かせてもらっております。

決して「トシヨリ」ぶるわけではありません。ただ、平均寿命の延び方が、私たちにその現実を示し、教えてくれている。であればこそ、声を大にして言わせてもらいたいのです。

誰もが、生きていく限り年を取る。どんなに若さを誇っていようが、頑健だろうが、金持ちだろうが、物を持っていようが、そんなものとは全く無関係に、誰もがいずれは必ず「高齢社会」のいわば「主役」、「主人公」的な立ち位置になる。必ず。

質 問 事 項

であればこそ、私たち、この現実への構えを「生きる根っこ」に据えて、住みどころづくり、地域社会づくり、そのためにこそ行政づくり、にこそ全力を傾注していかなければなりません。

例えば、一つずつの現実―。日頃の足・買物・配りもの・回覧板などへの対応処理―これらどれひとつをとっても、単なる市政による「支援」感覚では対応しきれない。私は、そこに市政による「責務」感覚での対応・位置づけを、確立していかなければならない―と、提言し続けているのです。

市長、いかがでしょうか。

(3) 「弱者」をこそその市政に

私、ことあるごとに、しつこいくらいに市長に、市役所行政に訴え続けていること。それは、「市民おひとりおひとりこそが行政の主人公・主役。それも、弱ければ弱い人ほど。そんなまちづくり・地域づくりに努めあいましょうよ。それこそが『二元代表』をもって任ずる私たちの最大の責務」―と。

であればこそ、私たち、市民（タミ）と行政（オカミ）の力の差を冷静・公平に見極め、対応することこそ肝要。

誰も、いずれは「弱い立場」に。「トシをとる・カラダを病む」。だから私たち、「弱い立場・弱い者主体のまちづくりをこそ進めるべき。チカラ・イキオイの追っかけではダメ」と、しつこいくらいに言わせてもらっております。

この項の最後に一言。

先ほども触れさせていただきましたが、私84歳、妻78歳。本当に周りの多くの人たちによる「オカゲさま」の毎日。今日も、このようにして『「高齢社会」を、『老老介護』を行政執行の根っこに据えよう、位置づけよう』と主張・訴えさせてもらっております。有り難いことです。

私、決して「弱さ」を売りにしてはいません。この世の中、誰もが「トシをとりながら」「弱さをかかえながら」の「生きる」を重ねております。

死ぬまで現役ジャーナリストを貫き通したあの、むのたけじさんにかつて当市にお越しいただきました。その折、駅までお送りさせてもらったときの言葉―。

「―『老いる』が堂々と歩かなければ、『若さ』はまともに生きていかれない。『老人』、ほんものの『年寄り』を目ざそう。なりましょうよ―」

―でした。

市長、いかがお受け止めになりましたでしょうか。

2 市消防団員の処遇改善・向上策を

火災に限らず、各種災害への対応など、私たちの「暮らし・生きる」を足元で守り・支えてくれるのが消防団員。今、市内に1,000人からの方々がその任に当たっていただいております。

それでは、それらの方々の実務内容から見て、対応というか対価というか、どうな

質 問 事 項

っているか。各種資料などで調べてみる限り、低いと言わざるを得ません。基本的な面からの対応や思い切った是正・改善・向上策をとるべきです。

もちろん、中身の複雑さもありましょう。が、しかし、まずは現状の基本的な見直しからでも手を着け、改善に踏み切るべきときです。

市長、どうお考えですか。